

# 在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークとその 関連要因：グローバル・キャンパスの構築に向けて

呉, 暁良

<https://doi.org/10.15017/1931983>

---

出版情報：九州大学, 2017, 博士（学術）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：

氏名	呉 暁良			
論文名	在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークとその関連要因 ーグローバル・キャンパスの構築に向けてー			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	郭 俊海
	副査	九州大学	教授	三隅 一百
	副査	九州大学	教授	松永 典子
	副査	九州大学	准教授	阿部 康久
	副査	九州大学留学生センター	准教授	白土 悟

### 論文審査の結果の要旨

本論文は、ソーシャル・サポート論を理論的枠組みとし、在日中国人留学生のソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因を明らかにし、日本の大学におけるグローバル・キャンパスの構築のあり方について論じるものである。

近年、日本では、大学における「内なる国際化」の実現という戦略が打ち出され、多くの大学が学生間の活発な交流と異文化理解に焦点を当てた「グローバル・キャンパス」の構築を目指している。この目標を実現するために、大学における学生間の出会いとコミュニケーションの促進、学生間のソーシャル・ネットワークの構築をサポートすることが重要視されている。しかし、大学が混住寮の設置、合同授業など積極的に様々な取り組みを行っているにもかかわらず、留学生と日本人学生との交流が十分ではないことが多くの研究で指摘されている。

グローバル・キャンパスを実現するためには、学生のソーシャル・ネットワークの現状を把握し、学生間のソーシャル・ネットワーク構築に影響する要因を明らかにする必要がある。特に留学生が異文化環境で新しいソーシャル・ネットワークを構築することにおいて、日本人学生以上に多くの困難に直面している。そのため、大学がどのような環境整備とサポートを行うべきかを策定するために、留学生のソーシャル・ネットワークの現状とその影響要因を明らかにする必要がある。

これまでの、留学生のソーシャル・ネットワークに関する研究を概観すると、次のような問題が見られる。まず、留学生の出身国の多様化が進んでいるにもかかわらず、すべての留学生を一括して一つのグループとして取り扱われる傾向がある。また、留学生と日本人学生とのソーシャル・ネットワークにのみ分析の焦点が置かれ、出身国が異なる他の留学生との関係や在学期間、専攻といった留学生の属性による影響を視野に入れた研究はほとんどない。さらに、研究方法としては事例研究が多く、留学生のソーシャル・ネットワークの特徴を大学別に分析した研究は少ない。

そこで、本研究は、日本における留学生の割合がもっとも高い中国人留学生を研究対象にし、在日中国人留学生のソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因を明らかにし、留学生のソーシャル・ネットワーク構築という観点から日本におけるグローバル・キャンパスを構築するためには何が必要であるかについて論じることを目的とする。

以上の目的を達成するために、本研究では、以下の4つの課題を設定した。1) 在日中国人留学生は同国人、日本人学生、他国の留学生とそれぞれどのようなソーシャル・ネットワークを構築しているか。2) それぞれのソーシャル・ネットワーク構築の阻害要因は何か。3) 諸関連要因による

ソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因への影響は何か。4) 大学の学生数や留学生の割合によるソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因にどのような違いが見られるか。

これらの課題の解明により、キャンパスというコミュニティにおいて、学生間でより深いつながりを形成するためにはどのような要因に注目すべきか、また、グローバル・キャンパスを構築するためにはどのような環境整備とサポートが必要かを、学生自身と大学関係者の双方に提示できるようになる。

福岡都市圏の7大学に在籍する中国人留学生（285名）を対象に実施した質問紙調査の分析の結果、在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークは友人の国籍によって異なることが分かった。その構築の阻害要因が、日本人学生との間では学生側の主観的要因にあるのに対して、他国の留学生とでは主観的要因と客観的要因の両方にあることが明らかになった。また外国語能力、居住形態、在学身分、在学期間、専攻、部活・サークルの参加状況、留学生会の加入状況といった属性が彼らのソーシャル・ネットワーク及びその阻害要因に影響を与えることが分かった。さらに在籍する学生数が中国人留学生の同国人とのソーシャル・ネットワークに影響を及ぼすが、日本人学生と他国の留学生とのソーシャル・ネットワークに影響を与えないことが明らかとなった。

上記の結果を踏まえて、多国籍学生間のソーシャル・ネットワーク構築にあたって、学生側の主観的意識の壁を取り払う手立ての必要性、部活・サークルや学友会・留学生会などの学生の自治組織の役割、大学院生への特別支援について考察を行い、属性が異なる留学生の多様性に注目しながら大学内部の人的交流の質改善を行う必要性を指摘した。最後に、キャンパスのグローバル化を実現するには、大学におけるカリキュラムの国際化が必要であり、フォーマルなカリキュラムとインフォーマルなカリキュラムの両方を有効に組み合わせ、意図的に学生同士の交流を促進するグローバルキャンパスの構築のあり方を提示した。

以上のように、本論文は、従来の留学生のパーソナル・ネットワーク研究とは異なり、キャンパスという枠内で展開される留学生のソーシャル・ネットワーク構築の状況とその構築への影響要因を解明した。留学生と日本人学生との関係に留まらず、これまで全く考察対象とされなかった留学生同士の関係や留学生の属性に注目し、ミクロ的な視点で考察を行い、今後の研究に新たな方向性を示した点が学術的貢献として高く評価された。さらに本研究で得られた知見がグローバル・キャンパスの構築という教育環境づくりの促進に大いに還元できるものと期待できる。よって、博士（学術）の学位に値すると判断した。